大韓民国

令和３年度　鳴門教育大学

グローバル教員養成プログラム実施報告書

社会科教育プログラム

○参加者

【鳴門教育大学】

教員（１名）人文・社会系コース（社会）	井上　奈穂
院生（３名）人文・社会系コース（社会）	井本　祥太（Ｐ２）
	山本　紗希（ＰＬ２）
	中﨑　正崇（ＰＬ２）
学部（１名）小学校教育専修社会科教育コース	庄野　双葉（Ｇ４）

【光州教育大学校ほか協力校】

光州教育大学校　李　貞姫　教授　他　学生３名

鳴門教育大学附属小学校　教諭　生杉　真美

大邱大学　朴　南洙　教授　他　学生３名

東北学院大学　坪田　益美　准教授　学生３名

日本体育大学　池野　範男　教授

○実施形式　：　オンライン形式@zoom,Google Site/Youtube/Google Forms

○課題回収期間　：　令和３年11月11日（木）～26日（金）

○双方向での研究会：　令和３年12月３日（金）17：00～19：00@zoom

１. はじめに

「グローバル教員養成プログラム（光州教育大学校【韓国】・社会科教育）」は，「主権者教育」の視点から，日本と韓国の社会科の授業を比較し，よりよい主権者の育成につながるための授業の在り方について検討するとともに，両国の懸け橋となるような主権者の育成につながる方略を考えることを目的としたものである。これまで「異なる文化」との共生をテーマとした授業の参観と検討を中心に行った。

2019 年，2020 年については，社会情勢の悪化や特に新型コロナウィルス感染症の世界的な拡大を受け中止とせざるを得なかった。2021 年度も同様の状況ではあるが，オンライン上での研究会を行うことで，本プログラムの継続を図ることとした。なお，実施にあたり，鳴門教育大学，光州教育大学校だけでなく，東北学院大学，大邱大学の研究者にも声をかけ，協力いただいた。オンラインでの実施にあたり，鳴門教育大学附属小学校の生杉真美教諭に，授業実践「どないしょん　ごみ処理」の提供をお願いし，指導案や学習活動の様子など関連資料をご提供いただいた。また，検討会の場にもご参加くださり，学生からの質問に答えていただけた。授業者に参会いただいたことで，授業についての議論が具体的になり，また，学生の意見も引き出すことにもつながった。

また，オンラインのため，参加者の制限をかけられないため，「教育実習は経験済みだが，教職経験は十分ではない」学生に絞り，募集を行った。結果，韓国の学生が 6 名，日本の学生が 6 名となった。

２. 計画・内容

２－１. 研究会の基本設計

これまで行っていた授業研究会は，事前準備，授業参観と授業検討会の 3 つを行っていた。併せて，対面で行う場合と異なり，オンラインで行う場合は情報を共有するためのプラットフォームが必要となる。そこで，ホームページを作成し，オンライン授業研究会に関わる情報のすべてを共有できるプラットフォームを作成した。

以下の表１はそれらの対応関係と使用したウェブソースソフトウェアを整理したものである。

表 1.　通常の授業研究会とオンライン授業研究会の対応関係

<table>
<tr><th>授業研究会</th><th colspan="2">オンライン授業研究会</th><th>期間</th></tr>
<tr><td>―</td><td rowspan="3">事前の準備（非同期型）</td><td>Google Site を活用したプラットフォームの設計
→授業交流会トップページ</td><td>―</td></tr>
<tr><td>A. 事前準備:参観する授業の教育課程上の位置づけについての学習，教育課程の比較</td><td>Google drive を活用したファイルの共有
→学習活動の様子，指導案，日本の教育課程，教科書</td><td rowspan="2">2021 年 11 月 11 日～26 日事前課題の実施・回収</td></tr>
<tr><td>B. 授業参観:授業の参観</td><td>YouTube を活用した授業映像の共有→授業実践「どないしょん　ごみ処理」を視聴しようの「日本語 ver.」,「한국어 ver.」
Google Forms を活用した授業への意見の回収
→「授業を視聴した感想」</td></tr>
<tr><td>C. 授業検討会:B を受けての検討会</td><td>双方向型</td><td>Zoom を活用した日韓の学生の交流の場の提供
→授業交流会トップページに掲示</td><td>12 月 3 日 17:00～19:00＠zoom</td></tr>
</table>

図 1. 授業交流会のトップページ

まず，プラットフォームとして使用したのが，Google site（https://sites.google.com/new）である。

Google Site を使うと，他のユーザーとリアルタイムで共同編集し、お互いの変更を入力時に確認できる。また，他のユーザーに閲覧や編集の許可を与えたり，アクセス制限をかけ，特定のユーザーだけがアクセスできるようにすることもできる。図 1，2 は，Google Site で作成したホームページのトップページと事前準備のページである。参加学生は，「授業交流会（図 1）」のホームページにアクセスし，そこから「事前準備（図 2）」に入り，「A.事前準備」を行う設計とした。なお，本授業研究会は，日本と韓国の学生が参加するため，2 か国語を併記する形となっている。

「事前準備（図 2）」では，参加学生へのメッセージ及び「B. 授業参観」に係る資料への 8 つのリンク先（「授業を視聴した感想（日本語／韓国語）」，「授業実践動画_どないしょん　ごみ処理（日本語／韓国語）」，「学習活動の様子」，「指導案」，「日本の教育課程」，「教科書」）を挙げている。

このように 1 つのページに情報を集約し，共通のプラットフォームとすることにより，情報の共有と提供の一元化が可能となった。

図 2. 事前準備（一部）

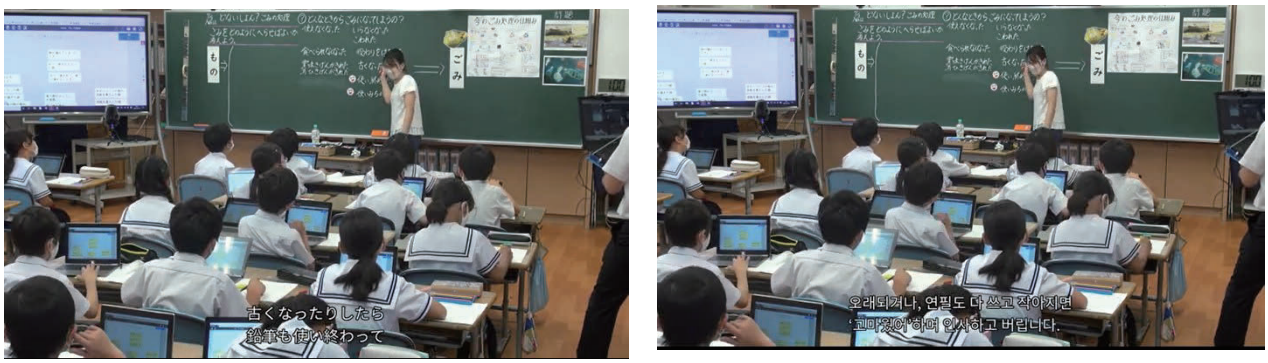


図 3. 字幕付きの動画（左：日本語，右：韓国語）

授業実践については，オンライン動画共有プラットフォームの 1 つである YouTube（https://www.youtube.com/）を活用した。日本と韓国の学生の両方に対応するために，字幕の機能を活用した。図 3 は，「日本語 ver.」，「한국어 ver.」の同一場面の様子を写したものである。日本語で文字起こししたものを翻訳し，対応する同じ場面に字幕を入れることで，韓国語を母国語とする学生も日本語と母語とする学生と同様，授業場面を把握できるようにした。また，授業の教育課程上の位置づけや対応する教科書等については，Google drive（https://www.google.com/drive/）で共有している。これらの資料も，日本語・韓国語の両方に対応できるようにしている。

学生の意見回収は，Google Forms（https://www.google.com/intl/ja_jp/forms/about/）を活用した。通常の研究会の場合，授業参観後に意見回収や交流を行うことが多いが，事前の動画視聴のための時間の確保，意思疎通のための翻訳の時間が必要であったことなど考慮し，事前に意見を回収することとした。また，授業検討会は，Zoom ビデオコミュニケーションズ提供の Web 会議サービス zoom(https://zoom.us/)を活用し，日本と韓国の学生の交流の場を設定した。動画の視聴，意見の回収は，2021 年 11 月 11 日（木）～11 月 26 日（金）の期間で行うよう設計し，課題の回収・整理・翻訳を受け,12 月 3 日（金）17：00～19：00 に zoom にて検討会を行った。

２-２.授業研究会のための場づくり

本プロジェクトでは，「「主権者教育」の視点から、韓国の社会科の授業を比較し、よりよい主権者の育成につながるための授業の在り方について検討するとともに、両国の懸け橋となるような主権者の育成につながる方略を考える 」ことを目的としてこれまで実施されてきた。そのため，授業の検討会では，主権者の育成を目的とする「社会科」の授業を見る視点として，「内容」，「方法」を設定することが多かった。そこで今回は，授業で取り上げているテーマ及び学習形態（話し合いや意見交換の行われ方）についての妥当性，そして，「社会科」としての妥当性を視点として設定し，授業を視聴した際の意見を回収することとした。図 4 はウェブページ上の表示，以下は質問項目を整理したものである。授業実践のテーマ等に合わせた質問内容となっている。この質問項目を字幕付きの授業実践の視聴後，取り組ませた。

図 4. 準備課題の Forms

研究会の事前準備として，以下に取り組んでください。

＊授業を視聴し，感想を記入してください。授業検討会の際の参考にします。

皆さん　授業検討会では，以下の点から意見交換を行います。現段階の考えを書いてください。

①授業では，「廃棄物の処理」がテーマとなっていました。

(1)「社会科」において，このテーマは重要だと考えますか？

(2)（1）の理由（それはなぜですか？）

②授業では，問題の整理や意見交換などが中心に行われていました。

(1) 授業において，このような方法は効果的に取り入れられていたと考えますか？

(2)「社会科」において，このような方法を取り入れることについてどう考えますか？

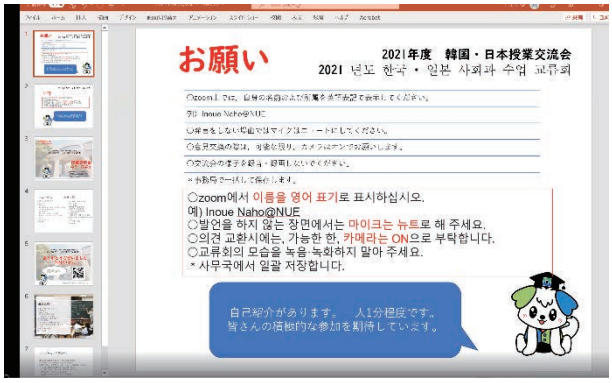
③PC／タブレットを活用した実践が行われていました。授業の中での ICT 活用についてどのように考えますか？

④その他　気づいたこと，検討会で話し合いたいこと，疑問点

２-３.オンライン授業研究会の実際

では、12 月 3 日（金）17：00～19：00 に zoom を通して行った授業研究会はどのようであっただろうか。

図 5 は，研究会で使用したお願いと式次第である。オンライン会議に入った際に「お願い」として，自身の氏名の表記，会議中の音声についての注意などを示した。その際，日本語と韓国語を両方示すことですべての学生に指示が渡るようにした。式次第についても，左右に同じ内容の日本語と韓国語を掲示し，言語による差が生じないように配慮した。また，事前準備の意見回収の翻訳に加え，通訳をお願いし，参加した学生が母国語で自身の意見を発表できる場を設定した。そのため，2 時間の時間設定ではあるが，1 時間程度の会議の設定となる。



プログラム

○本研究会の趣旨及び挨拶
○自己紹介
○授業交流会
ー授業実践「どないしょん　ごみ処理」を事例にー
（1）日本の教育課程の特徴
（2）授業交流会
・授業の方法・内容についての討議
・社会科としての位置づけについての討議
・その他
○本研究会のまとめ
○写真撮影

프로그램

○본 연구회의 취지 및 인사
○ 자기 소개
○ 수업 교류회
-수업 실천「어떻게 하지? 쓰레기 처리」를 사례로
(1) 일본의 교육 과정의 특징
(2) 수업 교류회
・수업의 방법 ・내용에 대한 토의
・사회과로서의 자리매김에 대한 토의
・기타
○본 연구회의 정리
○사진 촬영

図 5.　お願いと式次第

まず，「本研究会の趣旨及び挨拶」を行い，本研究会の趣旨を全体で共有し，「自己紹介」を行った。次に，事前準備で提示していた日本と韓国の教育課程の違いについての説明という形で確認作業を行った。次に，前半・後半と 30 分程度に分け，討議を行った。討議の際，学生からの意見は出てきにくいことが予想されたため，事前に回収した意見をもとに行うこととした。前半は，「授業の方法・内容」をテーマとして特に「②授業では，問題の整理や意見交換などが中心に行われていました。③PC／タブレットを活

用した実践が行われていました。授業の中での ICT 活用についてどのように考えますか？」を中心とした意見の交換を行い，後半は，「社会科」としての位置づけの妥当性」をテーマとして特に，「①授業では，「廃棄物の処理」がテーマとなっていました。「社会科」において，このテーマは重要だと考えますか？」を中心とした意見の交換を行った。しかし，厳密に分けられる議論ではなかったため，緩やかな設定であり，学生の意見の流れを最優先にすることとした。

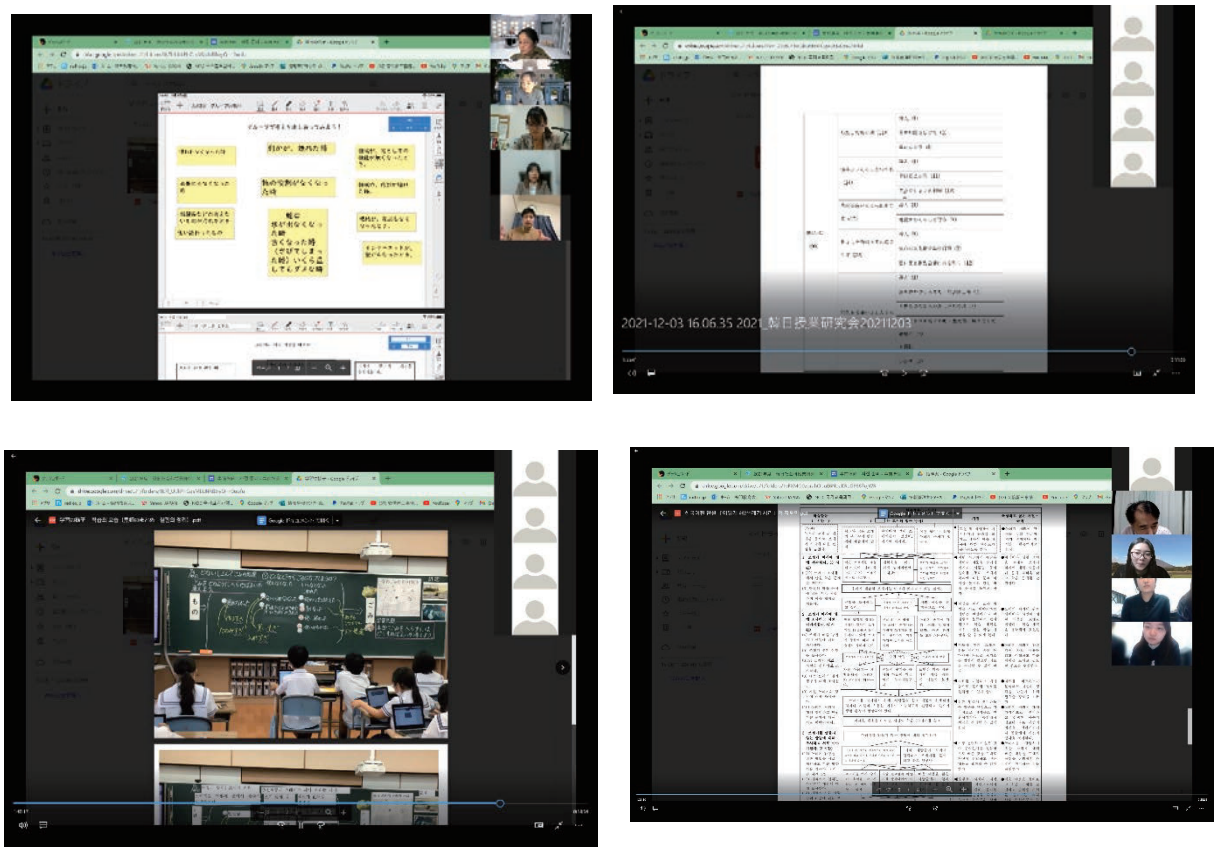


図 6. やり取りの実際

また，やり取りの際には，該当する資料を提示し，授業の事実や根拠の確認を行いながら，会議を進めていた。図 6 は研究会におけるやり取りの画像の一部を抜き出したものである。授業場面，教育課程，学習活動，指導案等，議論の流れに合わせ，資料を提示することで話し合いをスムーズに進めることを意図した。

研究会での話し合いの締めくくりとして記念撮影を行った。ここで撮影した写真は，図 7 に示すように Google Site 上の HP に挙げ，共有した。

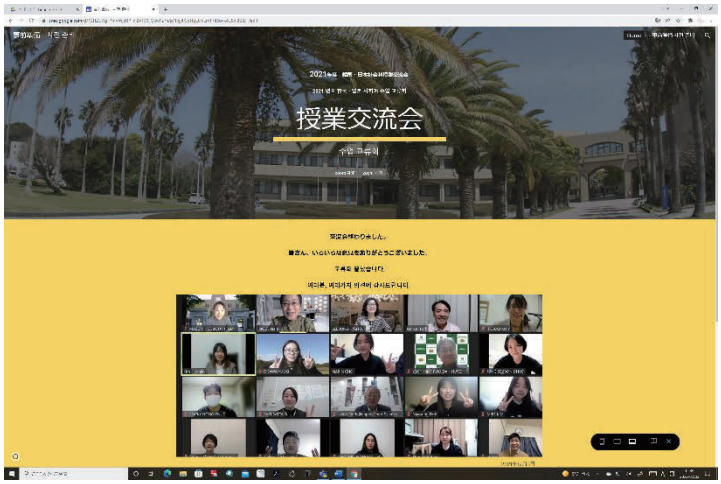


図 7. 授業終了後の HP

対面での交流会の場合は，食事やフィールドワークなど触れ合う機会が多く，思い出も作りやすい。しかし，オンラインの場合，双方向の場は 1 度きりであった。記念写真を撮影し，交流の記録を残すことで，日本と韓国について参加した学生がより考えることが出来るよう意図した。

３. まとめ

終了後，右のように提示し，本研究会に対するアンケートを実施した。アンケートは Forms を使用して行った。項目としては，「社会科の授業を検討する中で，どのような感想を持たれましたか？ご記入してください」というものであり，自由な記述を行うよう指示した。これらの指示は韓国語・日本語で表示した。以下は，回収したアンケート（一部）である。

図 8. 授業終了後の HP

表 2. 回収したアンケート

①日本の授業を見て，韓国の授業とも色々な面で比較できた経験がとても良かったです。また，授業をなさった先生の意見を直接聞くことができたことも，とても良かったと思います。特別支援教育を専攻している者として授業を見てみると，一般教育との相違点もたくさん感じられ，これに対する質問や気になる点も多かったのですが，時間がもう少しあったなら，色々な質問も一緒に質疑してくれたら良かったとも思いました。また別の面では，一般教育の授業をこのように実際に見ることができる機会はありませんでしたが，今回の機会を通じて，一般教育の現場や授業進行の流れを詳しく見ることができ，有意義な時間でした。教育実習生として，現場教師となり現場に出て授業をする際にも参考になる部分が多かったと思います。多様な考えや意見が五感のままに出てきて，より深く考えられるようにもなりました。次に機会があれば，オフラインでこのような交流会があったら良いと思います。良い授業と良い時間をありがとうございました！
②タブレット PC を授業で活用する際，授業に関連しない活動に陥らないように生徒をコントロールする色々な方法について聞くことができて良かった。また，タブレット PC／コンピューターと従来の手書きについて，教育的効果や生徒の発達の観点から比較して考えることができた。内容を整理するうえで，タブレット PC では容易に修正でき，保存と保管が簡単であるという点で，従来方式の整理よりも良い方法だと考えてきたが，他の方々の意見を聞いてみると，技術が発達しても従来の手書きが消えることはないだろうと思った。教育的効果を最大化するために，発達した技術と従来方式をどのように活用すればよいのか，教育実習生として今後さらに頭を悩ませるべき部分だと思う。
③全体的に，日本側のメンバーが積極的だったことが記憶に残っています。検討会で自分の意見をもっと表明すべきだったと反省する契機となり，日本の大学生の皆さんの情熱的な姿に感動しました。また，1 つの授業を通じてこれほど多様な意見をやり取りして，得られるものが多いという点で，授業も素晴らしい様式と材料になっていたと思います。最後に，授業の映像を提供してくださった先生にも感謝の言葉を申し上げます。

④検討会を通じて，意見を聞けたのが数人だったのが残念だった。 事前のアンケート結果を，学生にも見せていただけると意見を言えなかった人たちの意見も受け取ることができたと思う。それこそ今回議題としてよく上がっていた話すのが得意なのか，書くのが得意なのか，タイピングが得意なのかという話である。意見を出すのが苦手なことと意見を言うことが苦手なことは別問題であると考えるため，アンケート結果の共有や，手を挙げて発表だけでなくコメントでも良いとするなど幅広い形での意見を集めることをしていただけたらなと思った。
⑤二時間では収まらない内容だった。韓国の学生さん達とももっと交流を深めたかった。1 日以上かけて交流を含め，日本と韓国の教育課程の違いなどの基礎的な部分から一緒に確認したり，そこについても意見交流するなどして検討会ができたらまた楽しいと思う。韓国の学生さんで，日本の学習過程で韓国とちがいう部分があって興味深いという方がいらっしゃったので，韓国の教育課程についても詳しく知りたかった。
⑥日韓のカリキュラムの資料のおかげで，カリキュラムの違いがあることに気がつけました。大学の教職の学習では，大きな疑問を持たずに小学校や中高の教育のカリキュラムを受け入れていましたが，子どもたちがその内容を学ぶ時期や学年について疑問を持ってもいいのだと気がつきました。相手の考えを聞いて，新たな考えにたどり着くことができました。意見を発表するときに，考えをまとめるのが難しかったので，日本語の文章の組み立て方がうまくなりたいと思うようになりました。今後もこのような交流会があれば積極的に参加し，学びを深めたいと感じました。

（①～③が韓国側の参加学生，④～⑥が日本側の参加学生）

アンケートを見ると，肯定的な意見が多く，本交流会への参加に意義を感じている学生が多いことがうかがえる。やはり，「日本と韓国の学生が 1 つの授業を検討する」という課題を設定に対し，興味関心の高い学生が多かったことが，挙げられる。同じ教員を目指す立場の者として，1 つの授業をどうつくるか？について，国を越えた議論ができたことの意義は大きいと言えよう。

また，授業についての検討するにあたり，授業映像，指導案，教科書，学習の様子，板書など具体的に授業で扱った資料を事前に共有していること，授業開発・実践した教員が参加し，疑問点に答えてくれるという場の設定もまた効果的であったといえる。対面であれば，場の雰囲気などで補える部分が今回はオンラインでの実施のため，事前に準備する必要があった。このことが逆に，授業研究会の方針についての共通認識の形成につながったのではないだろうか。

一方，研究会については時間が足りなかった，意見を聞けたのが数人だったのが残念だったという指摘も見られる。対面で行えば，会話を行う機会は多く持てるが，1 回の双方向でのやり取りでは，全体のバランスをとる必要があり，難しいといえる。

今回のプログラムは，オンラインであってもかなりの意味のあるものであったといえる。今後は，事前の情報共有や学習を設定しやすいが，コミュニケーションの幅が狭いというオンラインの特性を対面での交流の際も生かし，よりよい日本と韓国との交流につなげていきたい。

（井上　奈穂）